

令和 7 年 度

佐野市農地等の利用の最適化の推進に関する
意見書

佐野市農業委員会

令和7年度佐野市農地等の利用の最適化の推進に関する意見書

日頃より、農業委員会の活動に対し、多大なるご理解をいただき感謝申し上げます。

昨今の農業情勢は、農業従事者の高齢化が一段と進み、農家人口の減少による遊休農地や耕作放棄地の増加、また鳥獣被害の拡大等の厳しい問題を抱え、農業所得や生産意欲の低下がますます懸念されます。

そのような状況下、我が国においては、担い手への農地の集積・集約をより進めるため、来年度より「人・農地プラン」が法定化され、「地域計画」が策定されることとなります。

既に「地域計画」の策定に向け地域で座談会が開かれるなどされておりますが、今後は、「地域計画」の実現に向け、農業委員会・行政・地域が連携していくことが重要になります。

本意見書は、農業委員会の取り組みを通して得た知見から、市長さんをはじめ、市の関係部署の皆さんに対しまして、諸問題の解決のためより一層の効率的かつ効果的な支援体制と指導援助をお願いするものです。

今後とも農業者がその経営に意欲的に取り組める環境づくりに格別なご配慮を賜りますよう、意見を申し上げます。

令和6年12月24日

佐野市長 金子 裕 様

佐野市農業委員会
会長 大 芦 宏

1. 鳥獣害対策

中山間地域において、耕作放棄地が年々増大している状況ですが、その要因の一つとして鳥獣害による作物被害が増加し、作付意欲を無くす農業者が続出している状況です。

地域と行政が連携して鳥獣害対策に取り組み、地域の生活や美しい景観を守っていくために、次のとおり意見を申し上げます。

(1) 獣害用電気柵等について

これまで個人や地域において電気柵やメッシュフェンスの設置に補助をいただいておりますが、メッシュフェンス等の補修や増設が必要な際、すぐに補助がもらえないなど依然として支援が不足しています。より迅速な対応を可能とするために、支援の拡充をお願いします。

(2) 有害鳥獣捕獲従事者減少に伴う獣による被害の増加とヤマビル被害対策について

有害鳥獣捕獲従事者が減少傾向にあり獣による被害エリアも拡大しています。それに伴い獣を介在したヤマビル生息域拡大被害の増加も深刻な問題と考えます。罟の貸し出しの増加など直接的な支援のほかに、地域の農業者以外の協力も得られるよう、関係機関との連携や専門家の意見を聞くなど対策の検討をお願いします。

2. 担い手の確保と支援

担い手不足や高齢化が進み、獣による被害が拡大するなど農業者の生産意欲がますます低下する状況に陥っております。

担い手の生産意欲向上に繋げるために、次のとおり意見を申し上げます。

(1) 小規模農家を対象とした支援制度について

圃場整備等がされていない小規模農地について、担い手に相談しても条件面から耕作してもらえないことが増えています。担い手への集約の支援はもちろんですが、小規模の農地を耕作する農家に対する支援も考えていただけるよう要望します。

(2) 新規就農希望者の増加を図る取組みについて

新規就農者や今後規模拡大を考えている若手農家を対象とした技術的支援として、新規就農者を対象とした説明会、研修等を強化し参入の窓口を広げることを要望します。また、新規就農者の設備投資の負担が大きいと聞くため、行政とJAが連携し離農する農家の農機具を貸し付けできるような制度の検討を要望します。

3. 農業基盤の整備対策

基盤整備は農作業の効率化や経営規模拡大に対して効果的であり、担い手への農地の集積・集約化の推進や耕作放棄地の増加を防ぐための方策として極めて重要です。

農地の継続した活用のために、次のとおり意見を申し上げます。

(1) 土地改良事業の促進について

近年作業の効率化のため、大型機械を導入する農業者が増えていますが、圃場や農道が狭く、効率的利用が困難な場所が多くあります。耕作に適していないなどの理由により耕作放棄地となる農地がないよう、水路や農道の舗装整備等の見直しをして、担い手が効率的な農業を行えるような環境整備を要望します。

(2) 圃場の環境整備について

近年のゲリラ豪雨等による川の氾濫から田への水草の流入、水路のつまりが頻回に発生しています。また、除草剤に耐性のある雑草が増え農業者の草刈りの負担が増加しています。多面的機能支払推進協議会から圃場の環境整備に対応した人員の配置を要望します。

4. 耕作放棄地対策

耕作放棄地は有害鳥獣、病虫害の発生等、近隣耕作地への悪影響を及ぼし、農地の持つ自然環境の保全、景観、防災効果の機能低下を引き起こします。

機能の向上、維持を図るために、次のとおり意見を申し上げます。

(1) 耕作放棄地への景観・観光作物の作付に対する支援について

県内の市貝町では、耕作放棄地の解消と新たな特産品の創出を狙い、オリーブの栽培を行政が支援し進めています。館林市など近隣市町村でも同様の取り組みが広がっているため、佐野市においても耕作放棄地の解消と特産品の創出につながる支援を要望します。

(2) 耕作放棄地の解消に向けた支援について

中山間地域では人口減少、高齢化による担い手不足が加速し耕作放棄地が増加しています。地域での対策には限界があるため行政とＪＡの連携を強化し、農機具の低額貸付や、県外移住者を対象としたサポートの強化など新たな担い手の確保と耕作放棄地の解消に向けた支援を要望します。